

2017 年度

関西学院大学 ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室

Volunteer Activity Office "Human Service" Support Office



関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

2017 年度

関西学院大学ボランティア活動支援センター

# ヒューマン・サービス支援室 活動報告書

関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室

## ■ はじめに

ボランティア活動支援センター長 挨拶 .....	2
伊藤 正一	
ヒューマン・サービス支援室長 挨拶 .....	3
関 嘉寛	
ボランティアコーディネーター 挨拶 .....	4
成安 有希	
2017年度学生コーディネーター代表 挨拶 .....	5
窪田 風子	

## ■ ヒューマン・サービス支援室

1. ヒューマン・サービス支援室とは .....	8
学内における位置づけ	
2017年度の取り組み	
2018年度の計画	
2. ボランティアコーディネート .....	11
支援室の利用状況	
外部団体からの情報提供数	
3. 災害支援活動 .....	13
災害支援活動スケジュール	
熊本地震から1年：活動報告イベント	
くまモンへの活動報告	
第5回 熊本地震現地ボランティア活動	
第5回 熊本地震現地ボランティア報告会	
第6回 熊本地震現地ボランティア活動	
「リサーチ・フェア」出展	
第7回 熊本地震現地ボランティア活動	
第7回 熊本地震現地ボランティア活動報告展示会	
第8回 熊本地震現地ボランティア活動	
2017年度 熊本地震現地ボランティア参加者数	
現地ボランティア参加者感想	

## ■ 学生コーディネーター

1. 学生コーディネーター（学生 CO）とは	22
年間活動スケジュール	
2017 年度の活動方針、目標	
2. 学生コーディネーターの活動	24
春ボラ	
ボランティア EXPO	
強化月間	
ボランティアツアー	
学内団体交流会	
ボランティア week	
3. 学生コーディネーター研修会	28
研修会の趣旨・内容	
4. 来年度に向けて	30
2018 年度学生コーディネーター代表 挨拶	
森本 敦史	

## ■ 記録事項

資料集	32
ボランティア活動支援センター規程	37
ヒューマン・サービス支援室規程	38
ボランティア活動支援センター名簿	39
ヒューマン・サービス支援室名簿	39
2017 年度 学生コーディネーター幹部名簿	39



はじめに



ボランティア活動支援センター長

**伊藤 正一**

関西学院においては、古くから災害への救援・支援活動を行ってきたという伝統があります。阪神・淡路大震災を契機として、関西学院大学の学生、教職員のボランティア組織としてヒューマンサービスセンターが発足し、以来20年以上にわたり活動してきました。また、様々な学生ボランティア活動団体も、ボランティア活動を積み上げてきました。

2016年4月にボランティア活動支援センターを設立することによって、これまでなかったボランティア活動そのものに対する相談窓口の提供が可能になり、関西学院大学のボランティア活動を一元化し、大学が主導・支援のもとに行うことができるようになりました。さらに、学内の様々なボランティア活動団体の相互の協力・連携のようにつながりができるようになりました。

ボランティア活動支援センターの事業を推進するために、同支援センター内にヒューマン・サービス支援室を置くことになりました。ヒューマン・サービスという名前は、上記のヒューマンサービスセンターに由来しています。ヒューマン・サービス支援室は、ヒューマンサービスセンターの実績を受け継ぎ、学生などによるボランティア活動を支援し促進する場所で、その業務は、ボランティア活動への支援・助言、ボランティア活動に関する情報収集と提供、ボランティア活動への啓発、ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表、ボランティア活動協議会の開催、その他からなっています。

近年、地震、台風、大雨など様々な自然災害が発生しています。このような状況の中で、政府などの支援だけでなく、ボランティア活動による様々なレベル・内容の支援がますます必要とされてきています。このような状況下で、ヒューマン・サービス支援室の役割がますます重要となってきています。2016年春に発生した熊本地震では、多くの人々が被災されました。その支援のために、本学ヒューマン・サービス支援室では、2016年度に4回にわたり延べ約100名の学生を現地に送り出し、2017年度にも4回にわたり延べ79名の学生を送り出し、避難所や仮設団地において、現地の状況を踏まえ継続的に様々な支援活動を実施してきました。

関西学院大学ボランティア活動支援センター、ヒューマン・サービス支援室は、関嘉寛（ヒューマン・サービス支援室長）、成安有希（専従コーディネーター）、学生コーディネーターの協力の下、今後も皆様方とご協力・連携をより深め、ヒューマン・サービス支援室をより社会に貢献できるものにしていきたいと考えています。

ヒューマン・サービス支援室・室長

**関 嘉寛** (社会学部教授)

私たち関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室は設立から2年経ちました。この間、多くの方々のご支援やアドバイスのおかげで、関西学院大学らしいボランティアセンター作りをすることができました。お一人お一人にお礼を申し上げるべきところですが、紙幅の関係もあり、この報告書を持って、お礼とさせていただきたいと思います。

ヒューマン・サービス支援室は、関西学院大学内におけるボランティアセンターとして2016年4月に設立されました。大学内におけるボランティア情報の集約や発信、そして何より大学内にボランティア文化を創り上げることをミッションとして活動をしてきました。

2017年度の活動の大きな柱は、学生ボランティアコーディネーターの育成を通じてのボランティアコーディネートの充実、新しいボランティア関連イベントの開催、熊本地震現地ボランティア活動、そして次年度に向けて神戸三田キャンパスでの活動の開始でした。

それぞれの内容については、本文中で詳しく報告させていただきます。みなさんに改めてお伝えするのは、ヒューマン・サービス支援室の2017年度の活動は3年間の初期段階を充実させることを可能にした1年であったということです。

学生ボランティアコーディネーターの積極性の涵養、ボランティアコーディネートの手続きの標準化への努力、ボランティア week の開催、熊本県益城町での4回の活動、神戸三田キャンパスでのコーディネート事業などそれぞれが次の発展に向かうためには必要不可欠なものであったと思います。

ただ、いくつかの課題も見つかった1年でありました。学内外でのネットワーク不足、認知度の低さが活動の広がりを時として妨げる結果となりました。このような状況を変えるべく、実績を積みながら、同時に発信をしていくことが重要であることを痛感した1年でもあります。

そのような意味で、2017年は意義深い1年であったといえます。2018年はこの成果をもとに、人員体制を増強し、さらなる発展を行っていきたいと思っています。その際には、みなさまのさらなるご支援、アドバイスなどが必要となると思います。どうぞよろしく願いいたします。

あらためてこの報告書は、私たち関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室の1年間の悪戦苦闘の記録であると同時に、ご支援、ご助力、ご指導いただいた方々への感謝の印でもあります。ご一読いただき、もっとうすべきだというコメントやご意見をいただければ幸いです。



ボランティアコーディネーター

## 成安 有希

---

ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室が設立されて2年が経ちました。1年目の昨年度は秋学期から本格的に始動したため、1年間を通して活動したのは今年度が初めてでした。

初年度からずっと意識してきたことは「学生コーディネーター（学生CO）が支援室の活動の中心である」ということです。そのため、学生COが力を付けていくことで自ずと支援室を発展させていくことができるのではと考え、学生COの育成に力を注いできました。育成というと一方的なように聞こえますが、学生に助言する中で、逆に学生から教えてもらったり、一緒に考えることで新たに気づくことも多くありました。時には厳しい言葉をかけることもありましたが、それをしっかりと受け止め、次に活かしていく姿を見て、「こんな心強い仲間がいたら頑張れる」と気持ちの面でも支えてもらいました。日々様々な大変さがありましたが、そんな心強い仲間がいたことで1年間乗り越えることができました。

災害支援活動では、昨年に引き続き、熊本地震現地ボランティアを実施しました。今年度はより学生中心の活動にするべく、事前研修を多く実施し、学生が主体的に取り組めるような枠組みづくりをしていきました。継続して活動に参加する学生も増え、次の参加者に学生自ら引継ぎをするなど学生同士のつながりもできていきました。活動自体も学生の口コミで広がるなど、今年度も高い関心を寄せてくれ、活動を継続することができました。

今年度1年間を通して学内外で認知度が少しずつ上がり、理解者や協力者も増えてきました。関係各所の皆様には多大なるご支援をいただき、今年度も大変充実した1年となりました。改めて感謝申し上げます。

来年度は設立3年目に突入します。新たな取り組みにもどん欲にチャレンジしながら、発展させていく1年にしたいと思っています。3年目も温かいご支援・ご指導を賜りますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。

この1年間、支援室や学生コーディネーターのことが、常に頭の中であり続けました。今こうして振り返ってみても、何ができたのか、正直まだよくわかりません。前団体のヒューマンサービスセンターから大学のボランティアセンターへと大きく組織が変わり、また1から土台を作っていくことは、やりがいもある分、想像以上に大変なことでした。その中で活動をしていくのは、私だけでなく、学生コーディネーターのみんなにとっても色々な大変さや不安があったらと思ういます。

新しく何かを決めていく・つくっていく意思決定の場面が多く、「みんなの意見」にしていくことが特に難しかったです。メンバーひとり一人はきちんと意見を持っているけれど、それを表に出すことに葛藤があるように私は感じていました。自分の気持ちを受け止めてもらえるという、安心が感じられるような関係性を築くことがまずは大前提として必要だったのです。つまり、「ボランティアは関係性があってこそ」と、みんなが私に気づかせてくれました。ボランティアコーディネーションも、ただ情報を提供するだけでなく、来室してくれた学生とコーディネーターで関係性を築いていきながら、一緒に見つけていくものです。そこに関係性がなければ、来室した学生が本当にしたいことを見つけていくことはできません。ボランティアは1人ぼっちではできず、だれかがいるからできることなのだと思います。後輩のみんなには、学生コーディネーターの仲間をはじめ、そのたくさんの「だれか」との時間を大切に過ごしてほしいです。

未来の後輩たちも含めてメッセージを残すとすると、ボランティアの楽しさを誰よりも感じている人になってくれたら、と思います。日々の活動に追われていると見失うこともあるけれど、コーディネーションやイベント企画のために情報が必要だからという前に、まずボランティアが好きであってほしいです。私自身が、学生COになってボランティアに魅了された、人生を変えられた一人だからです。そして、支援室がこれからも、そんなボランティアの楽しさで溢れた場所であってほしいと願っています。

最後になりましたが、学生COを応援して下さる成安さんや関先生をはじめ、素敵な大人の方々がいて、心が折れそうになった時、何度も救われました。心から、ありがとうございました。



# ヒューマン・サービス支援室



## 1. ヒューマン・サービス支援室とは

### 学内における位置づけ

関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室（HSSO）は、大学内におけるボランティアセンターの役割を果たす部署として2016年4月に設置されました。

HSSOの母体の一つになったのは、1995年阪神淡路大震災後に設立された関西学院大学ヒューマンサービスセンター（HSC）です。HSCでは、教職員と学生が協力して、さまざまなボランティアコーディネートがおこなわれていました。そういう意味で、関西学院大学におけるボランティアセンターの歴史は古いものです。

しかし、残念ながら、HSCは、関西学院大学内におけるボランティア活動の組織的な支援という点において課題を抱えていました。このような課題に対応するために、何年間かにわたる学内協議や勉強会の末に、大学内で組織的に位置づけられた組織として開設されました。

HSSOは、関西学院大学のスクールモットーである“Mastery for Service”を体現するボランティア活動を、さらに広げ、多くの学生が参加できる環境作りをミッションとしています。そのために、ボランティア活動の情報の発信や共有を中心に、ボランティアをしたい学生とボランティアをしてほしいニーズをつなげていく活動をおこなっています。

たとえば、HSSOの存在を学内各部署や学生に知ってもらうために、ボランティアEXPOなどのイベントを行っています。

HSSOは、学内におけるボランティア活動の情報をコントロールすることではなく、活動している人びと、活動したい学生たちの自主性を尊重し、窓口として学内外のボランティアを活性化することを目的としています。

また東日本大震災での大学の組織的な支援を再考し、発展させることもHSSOに課せられたミッションです。関西学院大学では、関東大震災時もボランティアを現地に派遣しているほど、災害救援において伝統があります。この伝統を受け継ぎ、災害が多発する現代社会において、被災者や被災地に寄り添う活動を組織的にやりたいと考えています。

## 2017 年度の取り組み

今年度の主な取り組みとして、以下の5つが挙げられます。

- ボランティア情報の収集と発信
- ボランティア関連イベントの企画、実施
- 学生コーディネーターの育成
- 神戸三田キャンパスでの活動
- 熊本地震被災地支援活動

### <ボランティア情報の収集と発信>

昨年度に引き続き、外部団体のボランティア募集情報の収集、整理をし、来室学生に紹介していきました。昨年度から課題を抱えた情報収集や整理でしたが、学内外での認知度が少しずつあがっていくことで、昨年度より自然に情報を収集することができました。発信に関しては発展途上な部分もあるので、来年度に向けて学生コーディネーターと取り組んでいきたいと思っています。

### <ボランティア関連イベントの企画、実施>

学生コーディネーターとともに、ボランティアに関するイベントを学内外で実施しました（イベントの詳細は24ページ以降に掲載）。学生コーディネーターで実行委員を組み、企画書作成から企画を実施するまで、どのようなステップを踏むのかを確認しながら進めていきました。最初は手探りだった学生も、イベントを重ねるごとに、学生同士で教えあい、全員が協力してイベントを実施することができました。

### <学生コーディネーターの育成>

支援室の活動の中心である学生コーディネーターが力をつけ、来室した学生への対応などの質を担保するために、今年度は研修会を2回実施しました。ボランティアに関する基本的な内容や、企画を立てるワークショップ、冬には1年間を振り返り、来年度に引き継ぐ研修を実施。研修を通して、コーディネーション力をアップするように構成しました。

### <神戸三田キャンパスでの活動>

活動を広げていくために、まずは2学部が置かれている神戸三田キャンパス（KSC）で月1～2回ほど活動をしていきました。KSCにある総合政策学部は、社会貢献活動などに関心をもつ学生も多く、月数回の開室に合わせて来室してくれる学生が増えていきました。どのような情報を得たいのかなど学生の声を集め、次年度に向けての準備を進めることができました。

### <熊本地震被災地支援活動>

昨年度に引き続き、年間4回の活動を実施しました。学生の関心も依然として高く、毎回募集定員の2倍ほどの応募がありました。参加者は、事前研修を通して、自分たちが現地でする活動を自ら考え、準備をしました。現地では本校の活動を待っている住民の方が増え、継続して活動することの重要性を感じました。

## 2018年度の計画

2018年度は、専従コーディネーター1名の増員に伴い、事業の拡大をしていく予定です。2017年度の振り返りから、重点的に取り組む活動は以下の4点にしました。

- 認知度の向上
- 学生COとの協働
- 神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパスへの展開
- 災害対応の確立

### <認知度の向上>

支援室のミッションを実現するために、支援室の存在そのものを知ってもらうことが重要であると考えています。そのために、以下のような点に留意しながら活動をおこなっていきます。

- ・学生への認知度の向上
- ・学内各部署への認知度の向上
- ・学外への認知度の向上

### <学生COとの協働>

大学ボランティアセンターである支援室にとって、学生COの活躍は必須のものと考えています。3年目に向け、さらにその力を発揮できるような環境作りを進めていきます。そのために、以下のような点に留意しながら活動していきます。

- ・研修会の発展
- ・運営体制の見直し

### <神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパスへの展開>

現在は、西宮上ヶ原キャンパスを中心とした活動になっていますが、神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパスの学生に対してもそれぞれの特性に合った支援をしていく必要があると考えています。そのために、以下のような点に留意しながら活動していきます。

- 神戸三田キャンパス
  - ・活動内容および活動場所の確定
  - ・広報活動
- 西宮聖和キャンパス
  - ・認知度の向上

### <災害対応の確立>

関西学院大学では、関東大震災にはじまり多くの災害に学生がボランティアとして支援活動をおこなっています。その活動を組織的に支えられるような体制づくりが必要だと考えています。そのために、以下のような点に留意しながら活動していきます。

- ・災害発生時の対応の方針を立てる
- ・熊本地震現地ボランティアの方向性を考える

## 2. ボランティアコーディネート

### 支援室の利用状況

#### 【西宮上ヶ原キャンパス】

月別来室者のべ数

月	ボランティア紹介	ボランティア相談	その他	計
4月	75		2	77
5月	63		8	71
6月	28		3	31
7月	17		8	25
8月	2		2	4
9月	7		4	11
10月	15		5	20
11月	12	1	1	14
12月	7	1	1	9
1月	3	3	5	11
2月	6	1		7
3月	2			2
合計	237	6	39	282

#### 【神戸三田キャンパス】

2017年度は月1～2回、神戸三田キャンパスで出張ボランティアセンターを開室し、学生へのボランティア情報の紹介や、相談事業を行いました。

日別来室者のべ数

		来室者数（うち、ボランティア相談件数）
6月	13日（火）	13名（5件）
7月	4日（火）	5名（3件）
10月	16日（月）	7名（1件）
	30日（月）	7名（3件）
11月	15日（水）	2名（1件）
	27日（月）	5名（0件、学内ボランティア団体所属学生2名）
12月	13日（水）	1名（0件）
	21日（木）	14名（2件）
計	実施8回	54名（15件）



## 外部団体からの情報提供数

支援室では、提供していただいたボランティア情報と提供数を15種類に分けて紹介しています。

子ども・青少年	子どもたち、中高生などに関わる活動（キャンプなど）	69
教育関係	学校教育や社会教育・生涯学習活動への協力	16
福祉	高齢者、障害者、さまざまな生活課題を抱える人などへの支援	51
医療・保健	病院でのボランティア活動、心に病を持つ人への支援、相談援助活動	6
国際	海外協力、日本にいる外国人への支援、難民支援など	29
環境	自然保護、里山保全、リサイクル活動など	17
動物	動物保護、生態系の再生・保全など	4
芸術・文化	美術館・博物館での活動、地域文化の保全・育成	4
スポーツ	スポーツ活動への支援、障害者スポーツへの参加・協力など	17
災害支援	防災活動、災害時の救援・支援活動	41
まちづくり	都市計画や公共施設建築などでの市民参加	7
祭り・イベント	地域のお祭りやイベントなど	15
人権	DVの被害者女性への支援、知的障害者がある人などの権利擁護	2
スタディツアー	海外スタディツアーなど	8
その他	上記にあてはまらないボランティアの種類、助成金など	32
合計（件）		318

### 月別情報件数（うち、来室した団体数）

4月	28 (13)	
5月	36 (10)	
6月	38 (6)	
7月	47 (6)	
8月	19 (6)	
9月	32 (2)	春学期 200 (43)
10月	12 (4)	
11月	32 (4)	
12月	19 (5)	
1月	11 (3)	
2月	18 (3)	
3月	26 (4)	秋学期 118 (23)
計	318 (66)	

### 3. 災害支援活動

#### 災害支援活動スケジュール

2017年度	内 容	場 所
4/10～14	第4回活動報告会 4/10～14 ポスター展示（図書館エントランス） 4/10～11 ボランティア EXPO ブース出展 4/12 報告会 4/14 座談会	西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館エントランス・ G号館会議室1・B101・G208
4/15～16	熊本現地視察	熊本県益城町他
4/17	熊本地震現地ボランティア活動報告会	三田市役所
4/17～24	第5回熊本地震現地ボランティア 募集期間	
4/21～28	第4回活動報告：ポスター展示	西宮聖和キャンパス 山川記念館メアリー・イザベラ・ランバス チャペル前ホール
4/28	第4回活動報告会	神戸三田キャンパス アカデミックcommonsオレンジブース
5/16	熊本地震現地ボランティア活動報告会	西宮上ヶ原キャンパス 社会学部チャペル
5/17	くまモンへの活動報告	西宮上ヶ原キャンパス 社会学部多目的室
6/2～5	第5回熊本地震現地ボランティア活動	
6/19～28	第6回熊本地震現地ボランティア 募集期間	熊本県益城町
6/30	「はるかひまわり」 植ええ	ヒューマン・サービス支援室前
7/3	第5回活動報告会	西宮上ヶ原キャンパス B101
9/7～11	第6回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町
10/2～9	第7回熊本地震現地ボランティア 募集期間	
11/17	リサーチ・フェア出展	神戸三田キャンパス
11/17～20	第7回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町
12/11～18	第8回熊本地震現地ボランティア 募集期間	
12/22	第7回活動報告展示会「キオクのキルク展 ～今の熊本を知っとる？～」	西宮上ヶ原キャンパス G号館会議室1
1/9	熊本地震現地ボランティア活動報告会	神戸三田キャンパス 総合政策学部チャペル
2/23～27	第8回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町

## 熊本地震から1年：活動報告イベント



日 程 2017年4月10日（月）～14日（金）

### 活動内容

- ・ 図書館エントランスホールでの展示  
4月10日（月）～14日（金）
- ・ ボランティアEXPOでのブース出展  
4月10日（月）、11日（火）11～16時
- ・ 報告会  
4月12日（水） 昼休み（12：50～13：20）  
@西宮上ヶ原キャンパスB号館101教室  
4月28日（金） 昼休み（12：50～13：20）  
@神戸三田キャンパスアカデミックコモンズオレンジブース
- ・ 座談会  
4月14日（金） 昼休み（12：50～13：20）  
@西宮上ヶ原キャンパスG号館208教室 参加者：5名



## くまモンへの活動報告



日 時 2017年5月17日（水）14：00～14：30

場 所 西宮上ヶ原キャンパス社会学部多目的室

### 内 容

- ・ 活動報告
- ・ 活動に参加した感想
- ・ くまモンからのお礼：サイン、プレゼント贈呈



## 第5回 熊本地震現地ボランティア活動



**日 程** 2017年6月2日（金）～5日（月）

**参加人数** 学生19名 / 教職員3名

1回生：5名、2回生：5名、3回生：7名、  
4回生：1名、M2：1名

### 活動内容

木山仮設団地

活動1日目：手芸、子ども遊びなど

活動2日目：子ども遊び（熊本学園大学とのコラボレーションで実施）、茶話会、手芸、ひまわりの苗植えなど

馬水東道仮設団地

活動1日目：物資配布、住民とのお話

活動2日目：フラダンス、茶話会

安永仮設団地

活動：手芸（折り紙）、茶話会



## 第5回 熊本地震現地ボランティア報告会



**日 時** 2017年7月3日（月）12：50～13：20

**場 所** 西宮上ヶ原キャンパス B号館 101 教室

### 内 容

- ・活動報告
- ・参加した感想
- ・「はるかのひまわり」プランターへのメッセージ記入



## 第6回 熊本地震現地ボランティア活動



**日 程** 2017年9月7日（木）～11日（月）

**参加人数** 学生22名 / 教職員3名

1回生：5名、2回生：7名、3回生：5名、

4回生：4名、M2：1名

### 活動内容

まち歩き

テーマ：震災前の生活を感じる場面とこれからの生活を感じる場面を写真で撮ろう

木山仮設団地

活動1日目：子ども遊び、貼り絵、スイカ割りなど

活動2日目：カラオケ、茶話会、手芸（折り紙）、うちわづくり、バルーンアートなど

馬水東道仮設団地

活動：方言クイズ、ビンゴゲーム、かき氷づくりなど

安永仮設団地

活動：くまモンと一緒にゲーム、そうめんづくり、カラオケ



## 「リサーチ・フェア」出展



### \*「リサーチ・フェア」とは

総合政策学部で毎年開催している学生・院生が日頃の研究成果を発表する『知』の祭典

**日 時** 2017年11月17日（金）10：00～13：30

**場 所** 神戸三田キャンパス II号館 105教室

**テ ー マ** 「熊本のいま」を伝えたい

～熊本地震現地ボランティア活動報告～

### 内 容

- ・写真展
- ・写真の説明
- ・動画上映



## 第7回 熊本地震現地ボランティア活動



**日 程** 2017年11月17日（金）～20日（月）

**参加人数**

学生18名 / 教職員3名

1回生：5名、2回生：6名、3回生：3名、

4回生：3名、M2：1名

**活動内容**

木山仮設団地

活動：茶話会、工作（写真たて作り、ミッキーの耳を作ろう）、手芸（折り紙）、子ども遊びなど

馬水東道仮設団地

活動1日目：ゲーム大会（紙ずもう、キーワードクイズ、ビンゴゲーム）、茶話会など

活動2日目：クリスマスリースづくり、茶話会、仮設内の清掃など

安永仮設団地

活動：クリスマスリースづくり（折り紙）、茶話会、子ども遊び（鬼ごっこ、バルーンアート）など



## 第7回 熊本地震現地ボランティア活動報告展示会



「キオクのキロク展

～第7回熊本地震現地ボランティア活動報告展示会～」

**日 程** 2017年12月22日（金）10：00～16：00

※入退場自由

**場 所** 西宮上ヶ原キャンパス G号館2階 会議室1

**内 容**

- ・写真展
- ・写真の説明
- ・動画上映
- ・活動紹介（パワーポイントを使った説明）





## 第8回 熊本地震現地ボランティア活動



**日 程** 2018年2月23日（金）～27日（火）

**参加人数**

学生20名 / 教職員2名

1回生：9名、2回生：5名、3回生：5名、4回生：1名

**活動内容**

木山仮設団地

活動：中国飾り紐づくり、昔遊び、クイズ大会、茶話会など

馬水東道仮設団地

活動1日目：棒サッカー、クイズ大会、茶話会など

活動2日目：ひな人形づくり、いちご大福づくり、茶話会など

安永仮設団地

活動：ソックスモンキーづくり、手作り写真たて、茶話会など

阿蘇市での活動：阿蘇草原保全センター、内牧商店街、門前町商店街など

テーマ：観光面から災害を知る

野焼きの学習・火消し棒づくり体験、商店街のまち歩き

## 2017年度 熊本地震現地ボランティア参加者数

学年	神	文	社	法	経済	商	理工	総合政策	人間福祉	教育	国際	国際	人数
1回生	0	4	0	2	3	1	1	10	1	0	2	0	24
2回生	0	2	4	3	3	3	3	3	2	0	0	0	23
3回生	0	4	2	2	1	4	0	5	1	1	0	0	20
4回生	0	0	3	3	1	1	0	0	1	0	0	0	9
研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
計	0	10	9	10	8	9	4	18	5	1	2	3	79

## 現地ボランティア参加者感想

### 第5回 熊本地震現地ボランティア活動参加学生

商学部2年  
井上 七海

前回の活動では、単発でボランティアをして帰ることに意味があるのかというモヤモヤした気持ちが残っていました。その気持ちを少しでも変えられたらいいなと思い、今回のボランティアに応募しました。

今回の活動の中ですっかりこのモヤモヤがなくなりました。まずは、「関学の人をよく来てくれるね」と私達のことを覚えて下さっている人がたくさんいたこと。この短期間で出来ることは限られている。それでも行くことに意味があるし、現地の方と顔を合わせて話すことで少しでも笑顔になっていただければという気持ちで活動しました。もう1つは、地道な訪問が実は1つにつながってきていたこと。八角箱作りのように関学生が教えたことが、今度は私達が教えられたようにもどってきている。それによってまた新たな会話が生まれる。こうして今までの活動の存在意義を知れたことで、活動を継続させることのやりがいが大変感じました。

### 第6回 熊本地震現地ボランティア活動参加学生

総合政策3年  
袋谷 佳愛

(中略)

ずっと仮設にいるとしんどくなるから、こうして違った人が色々なイベントをしてくれて本当に嬉しいと言って頂き、こんな私でも話を聞いてあげたり、何か色々なお話をすることで、少しでも元気になってもらえるんだと、逆に元気をもらってすごく嬉しかったです。

この活動を通して、目に見えない、残らないけれど、お互いに与え、与えられるものってあるのだと感じました。楽しみ、元気、嬉しさ、全部のものを熊本の人からもらった気がしました。

また、ずっと仮設にいて、家建つのがあと1年後という人がいて、毎晩色々思い出して苦しくなるとおっしゃっていて、その気持ちは誰にも私にもわからないので、そういう方に少しでも寄り添えることが出来たらと考えました。



## 第7回 熊本地震現地ボランティア活動参加学生

総合政策2年  
小田 三鈴

今回の活動を通して学んだことは、『ボランティアに参加することの重要性』です。

私は今回が初めてのボランティア活動で、正直ボランティアなのにこんなにも交流会が中心で良いのかなと感じていました。しかし、実際行って見て現地の方にお話を聞くと、企画を毎回楽しみにしてくれている等の声を聞くことができ、人との交流が心の支えにつながることを体感しました。また、熊本の震災後、メディアで度々現状が報道されていましたが、最近ではその報道もほとんど見る機会がなく、私達は熊本から離れて住んでいるともう熊本地震は過去の事のように感じてしまいます。しかし、まだまだ道路の整備や住宅の再建は進んでいないことを実際目で見て確認し、私達はそのことを決して忘れてはいけないと思いました。現地の方の中には、いつまた地震が来るのか分からないため、今でもお風呂に入るのが怖いと言っておられる方がいました。そういった恐怖や不安の中で毎日を過ごしている方達がいるということを私達は感じながら、そしてその人達の為に何が出来るのかというのをしっかり考えていくべきだとこの活動を通して学ぶことが出来ました。しかし、ミーティングでも出たように、私達が被災者の方々に対して全てを支援してしまうと、自立を妨げてしまう可能性も出てくるため、私達がきっかけを作り、その結果現地の方が自発的に行動して、自立していくことが1番ボランティアの理想の形ではないかと私は思います。これらのことは、実際に熊本を訪れて現地の方々と関わらないと全て気付かなかったことなので、まずは色々考えるのではなく、とにかく実践していくことが重要だと今日1日の活動を通して感じました。

## 第8回 熊本地震現地ボランティア活動参加学生

法学部1年  
山田 莉彩

ひな人形を作っている時、私と一緒に作っていたおばあちゃんが「私、ここの作業はホント苦手だわ～」と言いつつも、一生懸命に作っている姿が嬉しかったし、出来上がったひな人形を見て、「かわいい！孫に自慢しなきゃね」と笑いながら言ってくれたり、「これで自宅が明るくなるね。お父さんに報告しなきゃ」と言ってくれたことは、楽しんでもらえたんだと安心すると同時に、私に向けてくれた笑顔がすぎて心があたたかくなった。次ボランティアに参加する時も同じような笑顔を見れたらいいなと思う。私達がいちご大福を作っているのと同時に手巻き寿司を作ってくれていたり、パンやアイスを買ってくださっていたことを考えると、私達をあたたかく迎えてくださっているのだなと思った。それは、関学が地震発生から継続的にボランティアをしてきた結果だと思うから、私も継続的に参加したいと思った。今日の振り返りですごく印象に残った言葉が「ただしゃべって盛り上がったから良かったというわけではなく、ただそばにいただけでいいっていう人もいるように、その人が心地良いと思える過ごし方に合ったものでいい」というもので、私はしゃべらなきゃとばかり思っていたので、そういう過ごし方もあるのだなと気づかされた。

# 学生コーディネーター



## 1. 学生コーディネーター（学生 CO）とは

### 年間活動スケジュール

日 程	内 容	場 所
4月3日（月） ～5日（水）	新入生オリエンテーション ：パワポでの紹介、春ボラ配布	西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス、西宮聖和キャンパス 各教室等
4月10日（月） ～11日（火）	ボランティア EXPO2017	西宮上ヶ原キャンパス G号館会議室1
4月22日（土）	新入生歓迎会：ランチ会	西宮上ヶ原キャンパス G号館会議室2
4月26日（水）	新入生説明会	西宮上ヶ原キャンパス H号館302教室
5月1日（月）	新入生説明会	西宮上ヶ原キャンパス H号館302教室
6月1日 ～30日	強化月間	
7月～9月	ボランティアツアー	
11月8日（木）	学内団体交流会	西宮上ヶ原キャンパス 新学生会館会議室8
12月4日（月） ～8日（金）	ボランティア week ・図書館展示 ・学生 CO 企画「今年は君たちが サンタクロース！」 ・学内ボランティア団体向け相談会	西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館エントランス ヒューマン・サービス支援室 西宮聖和キャンパス ラーニングコモンズリプラ
3月9日（金）	コーディネーション研修	西宮上ヶ原キャンパス H号館302教室

## 2017年度の活動方針、目標

### 2017年度年間目標「せや、支援室行こか」

昨年度に支援室が発足し、従来と異なった視点から活動を見直す機会が増え、学生コーディネーターとしての活動の域が広がりました。しかし、コーディネート数やイベントにおける学生の参加数から、関学生内での支援室に対する認知度の低さに課題を感じる場面が多くありました。その中で今年度は、支援室や学生コーディネーターについてより多くの関学生に知ってもらうことを目標としました。

「せや、支援室行こか」

気軽に訪ねることができる場所にしたい！

さらに多くの関学生にとって身近な存在でありたい！

といった意味を込めスローガンを掲げています。

親しみやすさを提供するコーディネートをはじめとする学生ならではの視点を活かし、「せや、支援室行こか」と口ずさめるような身近さを学生コーディネーターに限らず関学生に提供することを目指します。



## 2. 学生コーディネーターの活動

### 春ボラ



#### \*「春ボラ」とは

「春のボランティア情報誌」の略称。学内のボランティア団体を1冊にまとめた冊子。毎年新入生オリエンテーションで新入生全員に配布する。

日程：2017年4月3日（月）～5日（水）

場所：各学部の新入生オリエンテーション実施教室等

内容：新入生オリエンテーションにて「春ボラ」を配布すると同時に、パワーポイントを使ってボランティアセンターの紹介をする。



2017年度春ボラ表紙

#### ■「春ボラ」掲載団体（20団体）

- ・ヒューマン・サービス支援室
- ・ヒューマン・サービス支援室 学生コーディネーター（学生CO）

#### ○公認団体

- ・AIESEC
- ・CLUB GEORDIE
- ・Eco-Habitat 関西学院
- ・K.G. BrainHumanity
- ・SSV 関西学院
- ・学習ボランティアサークル ALIVE
- ・関西学院上ヶ原ハビタット
- ・関西学院大学 宗教総部
- ・子どもの友
- ・ほっとコミュニティ

#### ○学内団体

- ・IVUSA 兵庫西宮クラブ
- ・Linkall
- ・学生団体 Flatto
- ・くじら
- ・地域フィールドワーク宝塚
- ・日本手話サークルはなまる

#### ○学外団体

- ・new-look
- ・どんぐり文庫

## ボランティア EXPO



日程：2017年4月10日（月）～11日（火）

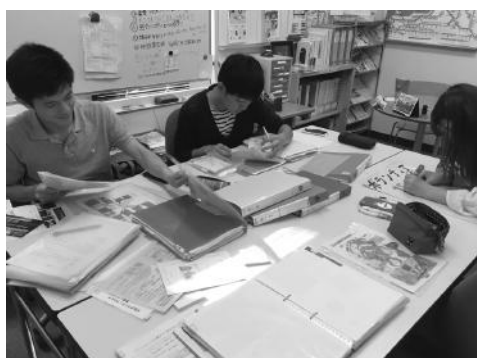
両日ともに11～16時

場所：西宮上ヶ原キャンパスG号館会議室 1

内容：「関学最大のボランティアの祭典」と称し、毎年開催している関学生が所属するボランティア団体の合同説明会。来場者は会場を自由に入退りでき、興味のある団体の話を聞くことができる。

来場者数（のべ）：327名

## 強化月間



日程：2017年6月5日（月）～30日（金）

内容：ボランティア募集の情報を把握できていないこと、来室者に対してうまくコーディネーションをできないことなどの課題を克服するため、1か月間の「コーディネーション強化月間」を実施。

前半（6月5～16日）：15ジャンルのボランティア情報から1つを担当し、担当したジャンルを調べて理解する。17日の研修会でグループ毎に発表する。

後半（6月19～30日）：各情報を理解したうえで、コーディネーション練習をする。自分たちのコーディネーションの良かった点や改善点を挙げ、最終的に動画にとってマニュアル化する。

●コーディネーション研修：コーディネーションの基礎を学ぶ

日程：2018年3月9日（金）13～16時

場所：西宮上ヶ原キャンパスH号館302教室

講師：岩本裕子先生（人間福祉学部非常勤講師）



## ボランティアツアー



日程：夏季休暇中（8～9月）

活動先：6か所

陽気な家（福祉）：8月3、4、6日

ゆりの会（環境）：8月8、22日

フォレスター松寿（環境）：9月2日

M-1御堂筋（環境）：8月6日、9月2日

門戸厄神であい市（子ども）：9月3日

さぼさぼ（子ども）：9月6、15日

内容：ボランティアには関心があるが、1人で参加するには不安な学生対象に、学生COと一緒に活動先に行くイベント。活動先は毎年変更し、様々な活動を経験できるようにしている。

参加者数：13名（学生CO除く）

## 学内団体交流会



日程：2017年11月8日（水）17：00～19：00

場所：西宮上ヶ原キャンパス新学生会館会議室8

内容：学内ボランティア団体の横のつながりを強くするため、アイスブレイクやワークショップを実施。各団体の活動紹介や、団体内の課題を多団体の学生と話すことで団体をこえて交流し、つながりを深めた。

参加団体数：3団体（計12名）

## ボランティア week

日程：2017年12月4日（月）～8日（金）

内容：①展示

場所：西宮上ヶ原大学図書館エントランス、西宮聖和ラーニングコモンズリプラ

内容：ヒューマン・サービス支援室紹介、ボランティア紹介等

②学生CO企画「今年は君たちがサンタクロース！」

場所：ヒューマン・サービス支援室

内容：不要になった洋服を集め、株式会社クロカワの「フクサポ」企画に送り、それを支援金に換えて発展途上国の支援をする。

結果：参加者数：57名

集まった衣類：528枚

③学内ボランティア団体向け相談会

場所：ヒューマン・サービス支援室

内容：学内団体との関係を深めるため、団体内での相談を受け付け、話をする。

④ボランティアに関する実態調査の実施

回答者数：787名

⑤学生CO向研修会（内部企画）

日程：12月10日（日）10：30～15：00

場所：大阪梅田キャンパス1406教室

内容：1年間の活動を振り返り、来年度の活動を考える





### 3. 学生コーディネーター研修会

ヒューマン・サービス支援室では、活動の中核にある学生COがコーディネーターとして十分なスキルを発揮するために、研修会をおこなっている。2017年度は春と秋に、研修会を行った。

春の研修会の目的は、新たに入ってきた学生COを主たる対象とした新人研修である。ここでは、ボランティアコーディネーターの重要性と基本的な知識およびヒューマン・サービス支援室との関係など学生COがヒューマン・サービス支援室で活動する上での基本的な事柄を理解することに主眼を置いた。

秋の研修会の目的は、半年ほど活動して得られた経験を発展させ、さらに学生COのスキルを向上させることである。そのために、企画の作り方やスケジュール管理の方法について実践的な例を挙げ、行った。

#### <研修会の趣旨>

- ・(春) ヒューマン・サービス支援室学生ボランティアコーディネーターとして必要となるスキルを認識し、それを身につける。

そのために

- ① 学生ボランティアコーディネーターの基本を身につける
- ② ヒューマン・サービス支援室のルールを共有する

- ・(秋) 学生COによって必要となる企画の立て方、進め方を身につける。

そのために

- ① 企画を立てる上で必要な考え方を理解する
- ② スケジュールの明確化と共有の重要性を知る



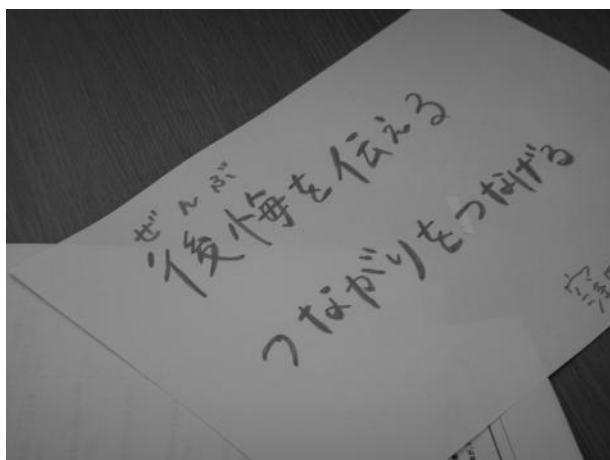
## <研修内容>

(春)

- ① 基本的知識の確認
  - ー ボランティアとは？
  - ー 大学ボランティアセンターとは？
- ② 支援室について
  - ー 学生COの位置づけと支援室との協働関係を確認する
  - ー 支援室で活動する上での自分たちのルールを考える
- ③ ボランティアコーディネーター（CO）について
  - ー コーディネートとは単なる情報提供ではなく、相手の新しい力を引き出す活動であることを確認する
- ④ コーディネートのrole play
  - ー 従来までのコーディネートと教科書的コーディネートの違いを確認し、自分たちにとってあるべきコーディネートの姿を考える
- ⑤ 企画について
  - ー 企画をおこなうことは関西学院大学内に新しいボランティア文化を生み出すことであることを自覚し、それだからこそそやってみたいということを形にしていくことが重要であることを確認する
  - ー 企画立案ワークショップを通じて、いかに企画していくかを体験する

(秋)

- ① 企画について
  - ー SWAT分析などを使い、現状のボトルネックを見つける
  - ー 企画の手順・必要項目について理解する
- ② 企画の実施について
  - ー PDCAサイクルの説明とそれを実施することワークショップで学ぶ



## 4. 来年度に向けて

文学部総合心理科学科心理科学専修3年  
森本 敦史

2018年度の学生コーディネーター代表を務めさせていただきます、森本敦史です。2018年度の学生コーディネーターの現状と目標を書かせていただきます。

ヒューマンサービスセンターからヒューマン・サービス支援室へと変わって3年目の年になりました。徐々に関西学院大学の学生のヒューマン・サービス支援室に対する認知度が上がっていくに従って、学生コーディネーターの活動の必要性、責任が増して来たように感じています。2016年度、2017年度は移行期ということもあり、試行錯誤しながらの活動でしたが、2018年度は学生コーディネーターとヒューマン・サービス支援室と協力関係の上で、長期的に持続可能な、基盤作りをします。具体的には、部署の設置による分業化、イベントの質向上、他団体、地域、その他の外部団体との繋がり作りを行います。

そのために、今年度の学生コーディネーターの目標として「魅力up！」を設定しました。学生コーディネーターの強みとして、メンバー間の仲の良さによって、ミーティングが充実し、学生の目線に立てるという点を活かし、イベント、コーディネート活動の質を上げます。関西学院大学の学生に、私たち学生コーディネーターの魅力だけでなく、ヒューマン・サービス支援室の魅力、関西学院大学の魅力、地域の魅力などを伝えていくことでボランティアの魅力を発信していきたいと考えています。2018年度も学生コーディネーター一同、「魅力up！」を目指し、関西学院大学を盛り上げていきたいと思えます。

# 記錄事項

---

## 熊本地震現地ボランティア

熊本地震から1年：活動報告イベントチラシ

**第4回**

**熊本地震現地ボランティア 活動報告イベント**  
ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室

4月14日は何の日か覚えていますか？ そう、熊本地震が発生した日になります。  
 私たちは震災が起こってから1年が経過しようとしている熊本県益城町に2月24日～28日に行ってきました。そんなわたしたちが現地で行った活動や現地の様子を伝えたい！私たちの声をお聞かせいただければ幸いです、ぜひお越しください！！

**図書館エントランス展示**

10日(月)～14日(金)

@大学図書館エントランス

私たちの印象に残った写真(風景や住民の方との写真)と、印象に残った理由を掲示しています。  
ぜひご覧ください！！

**ボランティアEXPO**

10日(月)～11日(火)

各日 11:00～16:00

@G号館2階会議室1

関学生が所属するボランティア団体の合同説明会『ボランティア EXPO』に出展します！  
実際に現地ボランティアを経験した人と話せるチャンス★

**熊本現地ボランティア報告会**

12日(水) 昼休み

@B101

具体的にどんな活動を行ったのか、活動を通して何を感じたのかなど詳しくお伝えします。  
実際に現地ボランティアに行った人たちの生声を聞いてみませんか？

**熊本現地ボランティア座談会**

14日(金) 昼休み

@G208


お昼ごはんを一緒に食べながらボランティア活動の内容や現地でのエピソードなどを聞いてみませんか？  
経験者とゆっくりに話せるチャンスです★



気軽に来るんだモン！  
待ってるモン！

第5回熊本地震現地ボランティア活動報告会チラシ

**熊本へ想いを繋ぐ～関学にひまわりを咲かせよう～**



第5回熊本地震現地ボランティア参加学生有志

私たちは6/2～5に熊本地震現地ボランティアに行ってきました。関西に帰ってきてからも何かできないか参加メンバーで考え、今後に繋がるボランティアとして熊本の現状や活動についての「報告会」と「関学にひまわりを植え、咲かせる」という形で行うことにしました。熊本現地ボランティアに興味のある方、熊本の現状を知りたい方など、是非報告会にご参加ください。また、報告会に参加してくださった方に、被災地へのメッセージを書いていただくと思っています。メッセージはひまわりのプラクッターに添えさせていただきます。

**報告会**


内容：活動報告・参加後の感想・メッセージを書く

日時：7月3日(月) 昼休み(12:50～13:20)

場所：B号館 101教室

★私たちがなぜ、関学でひまわりを植えることにしたか

今回の活動中、私たちは仮設住宅で住民の方々とひまわりを植えました。そのひまわりは、1995年に起きた阪神淡路大震災で亡くなったはるかちゃんの家のあった場所から、太陽に向かって力強く生えていたことから「はるかのひまわり」という愛称で親しまれているひまわりです。私たちはこの種をいただき、関学でひまわりを植えることで、「いつまでも熊本を忘れない」というメッセージを熊本に向けて発信するとともに、関学生にもさらに関心を持ってもらいたいという想いをこめています。




益城町で植えた  
ひまわり

第7回熊本地震現地ボランティア報告展示会チラシ

# キオクのキロク展

## ～今の熊本を知っとる？～



関西学院大学ヒューマンサービス支援室が主催する、**第7回熊本地震現地ボランティア活動**が2017年11月17～20日に実施されました。その活動の様子や内容、参加者の声など、盛り沢山に紹介します。ぜひお越しください！

**<日付> 2017年12月22日(金)**  
**<時間> 10時～16時 入退場自由**  
**<内容> 写真展覧会・ムービー上映会・活動報告会**  
**<場所> 上ヶ原キャンパスG号館2階会議室1**



第7回参加学生作成リーフレット表

### 参加者の声



【教育学部 4年生 綾子美佳】  
ボランティアに参加するまでは、テレビや新聞を通してですが、熊本を知りませんでした。メディアが熊本について取り上げる機会が少ないうえ、私も熊本を思い出す機会もありませんでした。しかし、ボランティアに参加し、熊本の人々と交流し、温かいやりとりを通じて、改めて熊本地盤、熊本の人々のことを他人事としては考えられなくなりました。熊本は遠いですが、避難に行くことは難しいかもしれませんが、思いを伝えることはできます。自分自身で考える、熊本を支援したいと考える一歩を踏み出して、本当に良かったと思っています。



【総合政策学部 3年生 希聖】  
友人のFacebookを見て衝撃を受け、「自分も行かなきゃ」と思い、今年の2月に初めて参加した。そんな熊本地震現地ボランティアに参加して、今回で2回目となった。この報告会に来てくれた方にはボランティアという言葉を知らずに、自分の家で現地に行って、自分の目で自分の目で自分の目で熊本のことを知ってほしい、自分が今まで参加してきて一番伝えたい。



【法学部 3年生 藤原悠】  
熊本現地ボランティアに参加するまではボランティアは自己満足のようなものではないかと思っていました。津波に被災地のためのボランティア活動なんて自分からいってしまっただけで、一回目に参加したとき、先生が参加する動機なんてでいい、参加して育ちを感じたが、自分はこの問題とどう向き合うかを考えることが大切だと話して下さって、答えが見つかったよな気持ちになりました。育ちがきっかけでもいいです、参加してみることが大事だと思います。



【人間福祉学部 4年生 芥木梨穂】  
去年の7月、3回生の時に私は第5回の現地ボランティアに参加させていただきました。今回の参加は二回目になります。一歩目も、二歩目も、現地へ足を運ぶという行為の大切さは今も忘れることが出来ません。ニュースや新聞で報道と表裏される数字の一つ一つに生活があります。命があります。それを目で見て、肌で感じてほしい。そして忘れてほしくない。ボランティアに積極的な皆さん、私もそうでした。1年か2年で十分な理由です。私たちは大切なものを奪われてしまっています。生きています。少しの勇気を出してください。私たちにもできることはあります。復興期が遠くても、変わらないものがあります。言葉に上手くできませんが、伝えたいことがたくさんあることが少しでも伝われば嬉しいです。

今回の報告会に足を運んでいただき、またこのパンフレットを読んでいただき、本当にありがとうございました。

12月22日 第7回熊本地震現地ボランティア参加者



伝えたいこと、たくさんあります

キオクのキロク展

関西学院大学ボランティア活動支援センター  
ヒューマンサービス支援室

〒662-8501  
兵庫県西宮市上ヶ原一丁目1-155  
TEL:0798-54-6061 FAX:0798-54-6161  
Email:kg.hssso.info@kwansei.ac.jp  
URL:https://www.kwansei.ac.jp/\_volunteer/



第7回参加学生作成リーフレット裏



2016年4月14日～16日  
新築7以上の2世帯が倒壊した大被害。  
受益町では倒壊被害の世帯数42世帯、重傷者134名、  
在籍世帯数8026世帯、半壊3233棟、  
最大罹損者数15059人。  
今なお作業は続いています。(2017年10月時点)

私たちは益城町の仮設住宅が所で活動をさせていただきました。



現在の公費解体率は約99%  
(発生後2年を解体撤去完了の目標としています。)  
撤去が進み、更地となっていますがその傷跡は現在も至る所に残っています。

つい二年前までは普通に生活が営まれていました。  
復興復旧活動は今も続いています。

### 学生企画

学生たちで企画したものを現地の集会所で行いました。茶話会やリース作り、写真立て作り、折り紙など、今回もたくさんの方が参加してくださいました。私たちが企画しましたが、現地の方に折り紙を教えたこともありました。



### 『思い出に残る活動を』



毎日夜にはその日の振り返りをします。学年関係なく意見を交換し、今後の活動についても話し合いました。  
私たちにもできることはたくさんあります。




ボランティアに行くことに不安を感じている方、行きはきつと何が見つけられます。分からないことがあればいつでも聞いてください。

### 振り返り



熊本日日新聞（第5回）

### 咲かせよう復興の花

#### 益城町 木山仮設地にヒマワリ苗植え

笑顔のよみな大輪のヒマワリが咲き出す。仮設地に咲かせよう。願する民が、「ほろかひまわり」と、熊本県で大きな震災復興のシンボル被害を受けた益城町として全国各地に広げられた。

はるかかひまわりは、阪神大震災でなくなった神戸市の加藤はるかさん（当時11）の自筆に咲いたヒマワリ。現在は日本橋の河端真さん（61）は、被災地の復興に「子どもたちを元気に育てよう」と、立派な花が咲いてほしいと願う。益城町では昨年、木山中の卒業生が「町」

を復活しよう」と、神戸市から種を取り寄せ、花を咲かせた。新しくできた仮設校舎などの来場者に配布している。木山仮設地の住人が、学校に相談して受け取った。

この日は仮設校舎が約40人が、仮設校舎の敷地内、カ所の花壇に丁寧に植える。子どもも大人も参加した。ボランティアの河端真さん（61）は、被災地の復興に「子どもたちを元気に育てよう」と、立派な花が咲いてほしいと願う。益城町では昨年、木山中の卒業生が「町」

死亡	50人	(熊本市4、南阿蘇村16、西原村5、御船町1、豊島町3、益城町20、八代市1)
172人	(熊本市66、鹿島町2、大津町4、合志市7、益城町17、菊池町3、八代市3、鹿阿蘇村11、御船町6、甲佐町3、宇土市7、宇城市2、高森町3、阿蘇市18、水川町1、西原村3、菊陽町6、美里町1、山都町1)	
6人	(熊本市2、宇土市2、上天草市1)	
2,699人	住宅191,593棟	
4,303戸	(16市町村、整備完了)	
入居申請	15,926戸 (25市町村)	
提供予定	14,600戸	
水道	断水 約450世帯	

（熊本市役所発表資料より）

熊本日日新聞（第6回）

### 被災地の今伝えたい

#### 関西学院大の学生有志

#### 益城でボランティア継続

年寄りまでの約40人は、熊本の復興を支援するために、ボランティア活動を行っています。10日は約10人が安永の仮設校舎で、被災地の現状を伝える活動を行いました。ボランティア活動を通じて、被災地の現状を伝える活動を行っています。10日は約10人が安永の仮設校舎で、被災地の現状を伝える活動を行いました。

関西学院大の学生有志が、被災地の復興を支援するために、ボランティア活動を行っています。10日は約10人が安永の仮設校舎で、被災地の現状を伝える活動を行いました。

ボランティア活動を通じて、被災地の現状を伝える活動を行っています。10日は約10人が安永の仮設校舎で、被災地の現状を伝える活動を行いました。

読売新聞：2017.11.21 発行（第7回）

### 絶えぬ笑顔 復興の礎

#### 関学大生 熊本訪問 7回目

関西学院大の学生18人が19日、熊本で大きな被害を受けた熊本県益城町の仮設団地を訪れ、住民との交流を深めるボランティアを行った。地震発生から1年半、現地で活動するボランティアが減少する中、同大学では毎月1度の訪問を続けている。（望月弘行）

同大学ボランティア活動が絶えなかったという。4度目の参加という人間福祉部2年の森月さん（21）は「来てくれるだけでいい」と感謝され、再会が7回目でのべ160人が参加した。

当初は避難所の益城町総合体育館で、物資の配布やごみ収集などを担った。閉鎖された昨年10月以降は、仮設団地を巡るようになり、現在は木山、安永、馬水東道という三つの仮設団地（50〜60世帯）を訪ね、交流を楽しんでいる。

クリスマスリースづくりなどの催しを開いている。今回は、学生の訪問に合わせて餅つきを企画した仮設団地も、高齢者が学生たちに「へたなそだな、あんこはもうやってるもんだよ」と助言するなど、笑顔が絶えなかったという。

同大学ボランティア活動が絶えなかったという。4度目の参加という人間福祉部2年の森月さん（21）は「来てくれるだけでいい」と感謝され、再会が7回目でのべ160人が参加した。

当初は避難所の益城町総合体育館で、物資の配布やごみ収集などを担った。閉鎖された昨年10月以降は、仮設団地を巡るようになり、現在は木山、安永、馬水東道という三つの仮設団地（50〜60世帯）を訪ね、交流を楽しんでいる。

クリスマスリースづくりなどの催しを開いている。今回は、学生の訪問に合わせて餅つきを企画した仮設団地も、高齢者が学生たちに「へたなそだな、あんこはもうやってるもんだよ」と助言するなど、笑顔が絶えなかったという。



## 学内主催イベント

ボランティア EXPO チラシ表

開学最大!!  
ボランティアの祭典!

**ボランティアEXPO**  
-みつかる新たなCHANCE!!-

2017.  
4.10 MON ~ 11 TUE  
11:00 ~ 16:00  
@G号館 2階会議室1

ボランティア EXPO チラシ裏

**●ボランティアEXPOとは・・・**  
**開学最大！ボランティアの祭典！！**  
 今年で10回目の開催！関学生が所属するボランティア団体の合同説明会。  
 誰でも参加OK！！話を聞くだけ、ちょっと雰囲気を見るだけでも大歓迎！

ボランティアしたことない、  
そんなあなたも大歓迎！  
ぜひ会場へお越しください！！

**●出展団体紹介**      **今年は、11団体集結！**

<p><b>ヒューマンサービス実務生 学生CO</b> (学生コーディネーター)</p> <p>関学ボランティアセンターの学北スタッフとして、関学生へのボランティアの紹介や、校内でのイベントを企画・実施しています。</p>	<p><b>関西学院 上ヶ原ハビタット</b></p> <p>長期休暇中に東南アジアで家族旅行を行ったリ、フィリピンの孤児院を訪れ、文化交流や物資支援を行っています。</p>	<p><b>K.G. BrainHumanity</b></p> <p>小学生対象のキャンプや高校生へのキャリア支援、また海外でのワークキャンプなどを企画・運営しています。</p>	<p><b>日本手話サークル はなまる</b></p> <p>日本手話を用いて「ろう（＝目や手話を使えない人とする人）」の子どもたちと一緒に遊ぶことを目的に活動しています。</p>
<p><b>学習ボランティアサークル ALIVE</b></p> <p>週に1回、児童養護施設で生活する子どもたちの勉強のサポートをしたり、一緒に遊んでいます。</p>	<p><b>ほっとコミュニテイ</b></p> <p>関学経済の育成センターなどで子どもたちと遊ぶ活動と、兵庫県芦屋町のコミュニティ支援活動の2部門で活動しています。</p>	<p><b>STUDY FOR TWO</b></p> <p>大学生から応募した教科書を安売りで再販売し、その利益を、発展途上国の子どもたちへの奨学金とする活動を行っています。</p>	<p><b>熊本地震 現地ボランティア参加学生有志</b></p> <p>2016年4月に発生した熊本地震の被災地に行き、仮設住宅で食卓とお茶会やイベントを通して交流を行っています。</p>
<p><b>KG CLUB</b></p> <p>オープンキャンパスにて大学案内役を行い、中高校生や保護者の方々に関学の魅力を伝える活動を行っています。</p>	<p><b>Linkall</b></p> <p>関学を目指す受験生に、学本を開けるプロジェクトなどを実施し、受験生を応援する活動を行っています。</p>	<p><b>IVUSA</b></p> <p>「国際協力」地域活性化「環境保護」「災害救援」の4分野を中心に、土日や長期休暇に活動を行っています。</p>	

**●会場へのアクセス**

**●問い合わせ**  
 ボランティア活動支援センター  
 ヒューマン・サービス支援室  
 [上ヶ原キャンパス正門入って左手・門衛室隣]  
 E-mail : kg.hssso.info@kansai.ac.jp  
 Twitter : @kg\_volunteer



ボランティア EXPO 当日パンフレット表紙



春ボラ表紙



ボランティア week チラシ表



ボランティア week チラシ裏



---



---

**ボランティア活動支援センター規程**


---

第1条 関西学院大学に関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）を置く。

（目的）

第2条 支援センターは、ボランティア活動の支援に関する基本方針を策定する。

（業務）

第3条 支援センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 その他、前条の目的を達成するための業務
- 2 前項の事業を推進するために、支援センターにヒューマン・サービス支援室を置く。

（構成）

第4条 支援センターに次の構成員を置く。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員 3名（西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田各キャンパスから1名）

（センター長）

第5条 センター長は支援センターを代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 センター長は副学長の中から、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター副長）

第6条 センター副長はセンター長を補佐する。センター長に事故あるとき、又はセンター長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 センター副長は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 センター副長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター副長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター委員）

第7条 センター委員はセンター長及びセンター副長を補佐する。

2 センター委員は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。

3 センター委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター委員が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター会議）

第8条 ボランティア活動の支援に関する基本方針を定め、それに基づいて、ボランティア活動を評価し管理するため、センター会議を置く。

2 センター会議は次の委員をもって構成する。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員
- 4 大学宗教主事
- 5 学長補佐 1名
- 6 学生活動支援機構長補佐 1名
- 7 大学事務統轄
- 8 学長室課長
- 9 学長が必要と認めた者 若干名

3 センター会議は、副学長が招集し、議長となる。

4 センター会議が必要と認めたときは、センター会議の議を経てセンター会議委員以外の者を出席させることができる。

第9条 センター会議は、次の事項を協議する。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 支援センター予算・決算に関する事項
- 4 支援センター諸規程に関する事項
- 5 ヒューマン・サービス支援室の人事に関する事項

（規程の改廃）

第10条 この規程の改廃は、センター会議の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。

## ヒューマン・サービス支援室規程

第1条 この規程は、関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）規程第3条第2項に基づき、ヒューマン・サービス支援室（以下「支援室」という）について定める。

（目的）

第2条 支援室は、ボランティア活動の支援に関する基本方針に基づき、学生等によるボランティア活動を支援し促進することを目的とする。

（業務）

第3条 支援室は、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（構成）

第4条 支援室に次の構成員を置く。

- 1 室長
- 2 副室長 3名
- 3 ボランティアコーディネータ
- 2 室長は、支援センター副長が兼ねる
- 3 副室長は、支援センター委員が兼ねる

（室長）

第5条 室長は支援室を代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 室長は本学専任教員の中から支援センター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（副室長）

第6条 副室長は室長を補佐する。室長に事故あるとき、又は室長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 副室長はボランティアに関する知識を有する本学専任教員とし、支援室長が推薦し、学長が任命する。
- 3 副室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、副室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（ボランティアコーディネータ）

第7条 ボランティアの全学的な推進と調整を行うため、

支援室にボランティアコーディネータを置く。

- 2 ボランティアコーディネータは室長が推薦した者を、支援センター長が任命・委嘱する。
- 3 ボランティアコーディネータの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、ボランティアコーディネータが任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（支援室運営委員会）

第8条 支援室の円滑な運営を図るため、支援室運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

- 2 運営委員会は次の委員をもって構成する。
  - 1 室長
  - 2 副室長
  - 3 学長補佐 1名
  - 4 学生活動支援機構長補佐 1名
  - 5 学長室課長
- 3 運営委員会は、室長が招集し、議長となる。
- 4 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会の議を経て運営委員以外の者を出席させることができる。

第9条 運営委員会は、次の事項を企画・立案し、支援センター会議に提案する。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（協議会）

第10条 室長は、関西学院大学で活動するボランティア団体の交流・協働を促進するため、室長、副室長による協議会を置き、開催する。

（規程の改廃）

第11条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。  
了解事項  
ボランティアコーディネータは期限付契約職員とする。

---

---

**ボランティア活動支援センター名簿**

---

ボランティア活動支援センター長

伊藤 正一 (国際学部教授・副学長)

ボランティア活動支援センター副長

関 嘉寛 (社会学部教授)

ボランティア活動支援センター委員

武田 丈 (人間福祉学部教授)

岩坂 二規 (教育学部准教授)

照本 清峰 (総合政策学部准教授)

ボランティアコーディネーター

成安 有希

---

---

**ヒューマン・サービス支援室名簿**

---

ヒューマン・サービス支援室長

関 嘉寛 (社会学部教授)

ヒューマン・サービス支援室副室長

武田 丈 (人間福祉学部)

岩坂 二規 (教育学部准教授)

照本 清峰 (総合政策学部准教授)

ボランティアコーディネーター

成安 有希

---

---

**2017年度 学生コーディネーター幹部名簿**

---

代 表： 窪田 風子 (人間福祉学部 3年)

副代表： 南條 早紀 (法学部 3年)

2017 年度

関西学院大学ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室 活動報告書  
2019 年 1 月 発行

---

関西学院大学ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

TEL: 0798-54-6061 FAX: 0798-54-6161

E-mail: kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

URL: [https://www.kwansei.ac.jp/c\\_volunteer/](https://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer/)